

2015 明治安田生命 J2 リーグ
第6節

vs. セレッソ大阪

4/5 13:00 kick off
@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

2015J2

■順位表■第5節

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績(岐阜から見て)

1	磐田	12p	+7	10	3
2	千葉	11p	+4	9	5
3	長崎	10p	+3	5	2
4	金沢	9p	+4	9	5 H●
5	C大阪	9p	+4	11	7
6	岡山	8p	+3	5	2 A●
7	讃岐	8p	+2	4	2 HO
8	東京V	8p	+1	6	5
9	横浜FC	8p	0	6	6
10	大宮	8p	0	5	5
11	京都	7p	0	7	7
12	札幌	7p	0	6	6
13	熊本	6p	0	5	5
14	群馬	5p	-1	4	5
15	徳島	5p	-2	4	6 A●
16	水戸	5p	-2	3	5
17	栃木	5p	-3	5	8
18	大分	4p	0	8	8 A●
19	福岡	4p	-3	6	9
20	愛媛	4p	-4	4	8
21	北九州	3p	-5	3	8
22	岐阜	3p	-9	3	12 --- ---

次回HomeGame

第8節 vs. 栃木SC
4/19(日) 13:00
@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場


本庄工業株式会社
<http://www.honjo-woodream.com/>

岡田歯科医院
岐阜市加納新本町1-23
tel:058-273-8998

ALADDIN
何も無い店だけけど..
心の花が咲く..
何も無い店だけけど..
心 癒される..
忘れかけていた喫茶店がある
岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

today's guest : セレッソ大阪

2014 J1 7勝10分17敗 勝ち点31:第17位

直近の対決と結果	
2009/11/28	J2 - 50節@長居
C大阪 2-1 岐阜	
西川優大 scored.	

ここ3試合の公式戦の結果	
FC岐阜	セレッソ大阪
2015/04/01 J2 - 05節@大銀ド 大分 6-2 岐阜	2015/04/01 J2 - 05節@フクアリ 千葉 4-4 C大阪
2015/03/29 J2 - 04節@長良川 岐阜 0-2 金沢	2015/03/29 J2 - 04節@ヤンマー C大阪 2-0 横浜FC
2015/03/21 J2 - 03節@鳴門大塚 徳島 1-0 岐阜	2015/03/21 J2 - 03節@Cスタ 岡山 1-1 C大阪

●3/29(日)第4節にはツエーゲン金沢を長良川競技場に迎えたFC岐阜。しかし今季J2昇格チームを相手にホームで0-2の完敗。不安と不満の残る3月最後の試合となってしまった。中2日で迎えた4/1(水)第5節・アウェイ大分戦は、チームを活性化させるため、そして過密日程での消耗を考慮して選手を大幅に入れ替えて望んだが、残念ながらこれが裏目に出た。チームが機能せずに大量6失点、屈辱的な敗戦となってしまった。これでチームは3連敗、2013年第33節(9/15)以来の最下位(=J3自動降格圏)に陥落した。チームは攻守共に問題が山積しているが、攻撃面については今季これまでの5試合で平均0.6得点と低調だが、大分戦では終盤に#24 難波宏明が2ゴールを挙げて意地を見せてくれた。このまま調子上がることを期待したい。一方の守備面は平均2.4失点、こちらの抜本的な立て直しを優先しなくてはならない。

しかし、そんなチーム状況の中で対戦する今節の相手は、セレッソ大阪。今季6年ぶりにJ1から降格してきたが、主力選手の慰留に成功して補強までした、まさに“J2規格外”のチームだ。これまで香川真司、乾貴士、清武弘嗣、柿谷曜一郎、南野拓実などを海外に送り出しており、在籍する選手も、現・日本代表でボランチを務める#6山口蛍をはじめ、#2扇原貴宏、#19田代有三、#20玉田圭司、#31橋本英郎、#32 関川訓充、#33 茂庭照幸の日本代表経験者、そして#18 カカウ(元ドイツ代表)、#21 キム・ジンヒョン(現・韓国代表)とズラリと名前が並ぶ。圧巻は元ウルグアイ代表・2010年W杯で得点王に輝いた#10 フォルラン。昨シーズンは苦しんだが、今期は既に3ゴールと復調の兆しを見せる。まさに“反則級”の豪華メンバーが揃ったチームだ。通算対戦成績も、岐阜の1勝5敗、3得点16失点と大きく負け越しているが、逆に言えば「FC岐阜はセレッソ大阪に1度勝っている」。それが6年前、2009年7/26(日)第30節の2-1での勝利だ。ここ岐阜メモリアルセンター長良川競技場を舞台に、香川真司や乾貴士がスタメンのセレッソ相手に、先制されたものの嶋田正吾がJ初ゴールを決め、佐藤光一の劇的なオーバーヘッドで逆転勝利を収めた(ちなみに試合後インタビューでの嶋田の「今週からシュート練習始めました」は一部の岐阜サポの間で「流行語大賞」になった)。この試合の岐阜のメンバーで唯一残っている#17 野垣内俊には、あの時と同じ活躍を今節も是非とも見せてほしい。一方のセレッソにも、#21 キム・ジンヒョンと#17 酒本憲幸の経験者が残っており、要注意だ。

守備に大きな不安を抱えている(12失点は現在J2ワースト)チーム事情の中で迎える相手としては、超豪華な攻撃陣を誇る(11ゴールは現在J2トップ)セレッソ大阪は率直に言って非常に厳しい相手だ。しかし、『勝てない相手』は存在しないのがサッカーだ。今季のセレッソも現在のところ無敗ではあるが、3試合で引き分けに終わり順位は5位、勝機はゼロではない。そのためにも、僕らサポーターが選手を鼓舞して、時には叱咤激励しながら最後まで勝利を信じ、拍手や声援を届けるスタジアムの雰囲気を作ることが必要だ。そしてそれは、記録的な敗戦で自信を失っているであろう選手たちの戦う気持ちを再び奮い起こさせることにも繋がるだろう。今節は折しも桜が満開。豪華な桜(※セレッソはスペイン語で“桜”の意味)が見事に散った後に“緑の若葉”が芽吹くような、そんな気持ちのこもった試合を選手たちには見せてほしい。(ささたく)

「いらっやいませ」より「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。
『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩3分。
休:月曜日

投稿募集!!
gidaidohri@
hotmail.co.jp

【第4節】岐阜 0-2 金沢

●北陸新幹線が開通し、朝ドラの舞台となって注目を浴びている石川県。サッカーの世界でも、星稜が全国高校サッカーで初優勝を飾り、ツエーゲン金沢がJ3王者に輝いてJ2に乗り込んでくる。しかも既に（東京Vとの）ホーム戦で勝利を経験しているので自信もつけている。一応「降格候補」とはいえ油断のできない相手、ここはしっかりと金沢を叩いておかないと…と思っていたのは、僕らサポーターだけだったんでしょかねえ…（溜息）。

残念ながら今節の岐阜の選手たちの動きからも、チグハグ感あるいは「他人任せ感」が拭えなかった。前節の徳島戦の方が（そりゃ相手が違うから単純ではないけど）ずっとよかったと思う。今年のチームは雨降ってると駄目なのかしら？それとも2008年だったかな、アウェイ遠征の方が（前日にホテルで過ごすから）選手の調子が良くなるんだという噂が流れたシーズンがあったなあ…なんて事まで思い出してしまうぐらいでしたよ、ええ（自棄）。どうして、相手が既にマークしてる味方に何も考えずパスを出すんだろう？どうして、マークされてるんなら動いてフリーになろうとしないんだろう？動きが鈍いというか、「次の動き」に共通理解がないというか（そーいや現日本代表監督は「ポゼッションより前へのスピード」を重視してチーム作りをやってるみたいですね）。サイド攻撃に偏向しちゃって中央でのセカンドボールはことごとく金沢に獲られてるし。一方の金沢は最後まで積極的に精力的に走っていた。岐阜のボール保持者に複数名でチェックに行つてボールを奪うシーンを何度も見させられた気がする（逆に言えば、それで余ってるハズのウチの選手は何処に消えたんだ…）。もっと最後までひたむきに走らないと、勝利は訪れないんだと痛感した。

そして、ホントにウチの“優しさ”は折り紙付きで（苦笑）。後半早々に多治見市出身の#10 佐藤和弘にJ2初&地元凱旋ゴールを献上して…って、たしかに少し危険な状況になったけど、なんで味方のDF陣の人数が多いのに敵1人にやられちゃうかな？正直、あれはアカン。あれで一気に流れが金沢に持ってかれて、岐阜はさらに手詰まりになっていった。PKで2点目を献上したのを見届けて帰宅する観客が何人もいたことを、選手たちは忘れて欲しくない。

結局、スタッツでもシュート数が岐阜4金沢7、枠内だと岐阜1金沢4。FKに至っては岐阜10金沢24…讃岐戦とは逆に「負けに不思議の負けなし」と言える試合。冷たい雨と寒い内容で身も心も冷え切った、サポーターのブーイングも当然といえる結果だった。この試合を落としたことで、僕は「今年のFC岐阜は残留争いに加わるかもしれない」と覚悟を決めた。もちろんその予想を裏切る奮起を選手たちには願うし、1年後に今シーズンを振り返って「ホーム金沢戦がワーストゲームだったね」と笑えるようになることを望むけれど、ね。（ささたく）

●「え〜っ！？アレを決められちゃうの……？」後半開始直後の失点シーンで、思わず口を突いた言葉が虚ろに響く。あれで試合の趨勢が決まってしまった手痛い失点。しかし、本当に痛いのは失点そのものじゃなかった。確かに、高い位置でボールを奪われた。ただ、人数はほぼ4対1で、ウチの数的優位な場面。にもかかわらず、そのわずかに1に身体を入れられ、しかもたいして威力も早さもなさげなシュートをファーに決められる。いや〜、冗談だろって思いたかったが、事実は事実。変えようがない。あとは、サイドから行くのか、苺部を前に上げて真ん中から狙うのか、それとも……。何の意図すら見えないままでタイムアップ。一身上の都合で長良川参戦を断念し、久しぶりのTV観戦。現地とモニター越しの印象が大きく変わることは今まで何度も経験しているけど、モニター前にしての自分のありさまから考えて、もしもコレを現地で見てたらどれほどキツかったか。想像を絶する、と

うか、想像したくもない。クラブや監督の思惑はどうあれ、密かに「目標は残留と黒字」と思っていたけど、残留を争うことができるのだろうか？2011の最下位一人旅の悪夢がフラッシュ・バックしてきたよ。毎試合本紙に感想を投稿してきて、いろんなキツイ試合があったけど、その都度イトコ探しもして前向きな投稿をしてきたつもりだったけど、この試合は……。

それでも、前半の宮沢のシュートとタクミのスライディング・ボレーは惜しかった。アレが決まっていれば……。と書いたところで慰めにもならない。後半はシュートあったのかな？完全に金沢の掌の上で転がされた。金沢を軽く見ていたつもりはない。開幕からの3戦を見たら、とてもそんな余裕はできない。それにしても、だ。特にビッグ・ネームがいるわけでもない金沢がこれだけ組織的に展開できるのに対し、ウチは攻撃の形すら作ることが出来なかった。敵陣へボールを運んで奪われてカウンターか、バックパスか。バックパスも狙われて、ただ前へ蹴るだけになり相手ボールにされてしまう。まるで「攻撃禁止」「シュート禁止」の裏ルールがあるかのようだ。見ている方もツライが、やってる選手もツライでしょ、コレは。結局、毎年新しいサッカーにトライしてるんでこうなっちゃうのかな？とどのつまり、「昨季までの実績、積み重ね」がないからなんだな。

難波の1トップが悪いんじゃない。確かに彼の長所を生かした戦術ではない。でも、彼が明けたスペースを有効に使えばいいだけのこと。そのための1トップの下の3人。そう思っていたんだけど、全然リンケージしていない。1トップだからと言って、ハイボールに強い必要もない。制空権を得られなくても競りあいをして自由なボール・コントロールを阻止できれば、セカンド・ボールを奪うチャンスはできる。それ以上にボールをキープしてタメさえ作ってくれば、後ろの選手が上がる事が出来る。それは選択肢が増えることにつながる。そういうプレーに上背は必要ない。もちろん、それも難波の得意技ではないのは承知している。それは高地の方が向いている。そのために高地はトップ下に入っている。なのに、判で押したように後半から彼を一系列下げるのはなぜなんだろう？苺部を育てる、あるいは宮沢を大事に使う。そういう意図もあるのかな？それでも、この試合の後半開始直後の2人替えは悪い作戦とは思わない。イーブンで折り返したホームでの試合。勝つために積極的に仕掛け主導権を奪い先制する。狙いはいい。だからこそ、アノ失点が残念だった。あの場面を含め、どうもバックライン。特にヨシカツとCB2人のトライアングルが不安定。「魔のパミュダ・トライアングル」という形容は昭和過ぎるかな？やはり、このご時世にはCBにもスピードが必要だろう。そう考えると、現在の戦力で優先的に起用されるべきなのは誰なのか？使われないのは公表されてない（と思うが見落としてるのか？）ケガがあるのか。まずは守備が安定しないとどうにもならない。逆に攻撃陣は、今休養中の選手が復帰しても劇的に好転するとは考えにくい。

やはり、クラブや監督の抱える事情や思惑はどうあれ、開幕の時点で9番や10番という看板が揃わないのはイビツな形と言わざるを得ない。今、そんな事を言ってもどうしようもないことはわかっている。ただ、残留するためには勝ち点が40は必要で、それをキープするためには毎月5点以上積み重ねる必要がある。3月は3点。ひたむきに目指すサッカーの「熟成」を進めるのか。それを待てるのか。待つしかないのか。ただ、次に長良川に迎える相手は、そんなことを考える余裕すら与えてくれるとは思えない。いや、いつぞ開き直り、腹をくくるには願ってもない相手かもしれない。もとより、勝利を願う気持ちに偽りはない。選手達にも「意地」ってヤツを見せてほしい。（ぐん、）

●ぼくは『「格」とは『カテゴリー』のことである』という考えでいる。だから、同じリーグで戦う相手に『格上』『格下』はない。セレッソも大宮も徳島も金沢も「同格」だ。

でも、昨年までは金沢は確実に『格下』だったわけで、その金沢相手にここまで「手も足も出ない」サッカーをする状態になっているとは思ってもみなかった。昨年は『格上』だった徳島相手にアウェーで悪くない戦い方が出来ていた…と聞いていたもので、ね。

現在のFC岐阜では、両サイドの2列目、レオミネイロとタクミにはおそらく「いればいいよ」という指示が出ているようで、両サイドを使った崩しはほぼ皆無。ツカサや富士くんが追い越して行った時は後ろをケアしなさいという指示も出ていないようで、おかげで選手9人+クラゲ2匹というチーム・フォーメーション。これではトップ下の高地は難波に出すしか選択肢はない。前半はホントに高地→難波のラインでしか攻撃らしい攻撃は出来なかった。「チーム全体で『何か』をしよう」という意志は金沢の方から多く見て取れた……というのは、観戦してた皆さんも同じだろうと思う。

後半アタマから、宮沢に替えて苅部。高地を1列下げて、トップ下に苅部。これで高地は相手守備陣から離れて前線やサイドへの配給という“レジスタ”の仕事がやりやすくなるだろう……と監督は思ったのだろうけど、とにかく両サイドがどちらも潤滑油枯渇でギシギシ行っている状態はそのままなので、結局「中央の高地からすべてが始まる」という仕組みは変わらない。相手の金沢からしたら、前線からプレスかけて奪ってしまえば、高地のポジションが下がった分だけ「ショートカウンターを開始地点が岐阜のゴールに近くなる」。まさに、『鴨がネギ畑に案内してくれた!』環境に。スコアに相応しい“完敗”でした。お客さんが途中でソロソロ帰るのもわかるし、終了後の大ブーイングもこの試合に関しては納得。メインではブーイングの前に大声でヤジが飛ぶという、数年前によく見かけた『長良川競輪場』が戻ってきた気がしたね。

でも、ぼくは不思議と“怒り”は湧いてこなかった。「選手が不甲斐ないサッカーをした」わけではなく、「不甲斐ないサッカーしか出来ない」のが岐阜の現在位置だとわかったから。今季のFC岐阜にとって、『J2残留』は「最低限の目標」ではなく「目標」だということも確認出来た。大丈夫、そういう状況での試合観戦の楽しみ方なら“慣れて”ますから(笑)。ラモス監督は試合後の記者会見で「早急に手を打たないと」と言っていたので、さてさて監督には「どこがダメと映っているのか」、水曜の大分戦と今日のセレッソ戦が“楽しみ”になって来ましたね。(吉田铸造)

【第5節】大分6-2 岐阜

●大分戦はツイッターで応援していましたが、大負けしちゃいましたね。前半で5点取られ、最終的には2対6での敗戦。失点は殆どがセットプレーからってのも、ね。もっと大敗した事はこれまでも有りましたが、相手が前節時点で最下位のチームにこの点差で負けたのは正直辛いです。

でも複数得点が取れたのは得点力不足に悩む今シーズンのチームとしては良い事だと思うし、後半だけを見れば2対1。前半のどうしようも無い状態を修正して、後半はしっかり戦えたのは良い事だと思います。まだシーズンは始まったばかり。前向いて行きましょう。

まずは今日のセレッソ戦。みんな笑顔で帰れると良いな〜と切に思います。(ヤックル)

●「こんな試合だからこそ、現地で応援したい。」皮肉ではなく、まじめにそう思うてしまうのは性分なのか、病気なのか。どうしても都合がつかず、TV観戦となったこの試合。語るに値しない試合になるのか……とも思っていたけど、その分冷静でいられたおかげか、なんだかいろいろ見えてきたような気がした試合になった。むしろ、5点取られてからじゃないとスイッチが入らないチームなどネタでしかない。プレッシャーが消えてからしか戦えないんなら、例えウチがJ2を名乗るのもおこがましいとんでもクラブといえども、プロとしてや

る意味なし。だから、得点できたのはよかった。零封されるよりはマシだよね。ま、コレは皮肉。とりあえず、今夜の試合で、ボクの中にあった幻想が壊れた。とある新加入の選手をずっと見てきたんだけど、どうやらボクの知っている彼とは違う選手だったようだ。あれだけピンチの起点、チャンスの蓋になられてはしようもない。今ウチにいる限られた戦力の中でも、これからも使ってほしいと思える選手と、それ以外の選手が見えてきたような気がする。

前節から5人変更という大幅入れ替えを行って、テコ入れしたつもりがこの結果。どの選手がいなくなったら、こうなった。そういうのも見えてきた。そんな中でチャンスを作った、とまでは言い難いが、レオが決めてくれてたら、結果として2アシストだったかもしれないアノ男。生え抜きにして岐阜一筋のバンディエラ。あと、岐大通に投稿した金沢戦の感想で「今休養してる攻撃の選手が復帰しても、劇的な変化は見込めない。」みたいなことを書いたけど、今素直に圭輔には土下座したい。それから、ロドリゴの無事を祈る。大事を取っての交替であってほしい。

もちろん、ここまで最下位の、それも大量リードで少々気が抜けていたであろう大分相手なんて浮かれ気分にはなれない。それでも、一昨年までの岐阜と比べたら、選手のレベルは上がっているはず。それなのに、こんなテイタラクなのは何が原因か?とりあえず、預けておけば何とかしてくれる。そんなエースがいない以上、組織的に戦わなければならないし、そのためにサイド攻撃を標榜したのだと思っていた。だが、それも単発でパス・コースを増やす動きもなければどうにもならない。選手もやるべきことはわかっているはずと思いたい。が、結果の出ない流れが続く、やってもパニックになったり、信じきれなかったりすることが多いんじゃないか?そういうのを払拭し、戦術や手順を叩きこむのが監督を始めとする首脳陣。その流れが、つながりがうまくできていないのだろうか?

もう、この際だ。4月、5月はくれてやる。早く戦える集団になってくれ。6月以降10連勝ぐらいすれば、残留ぐらいは何とかなるやろ……、ならないか、やっぱり(苦笑)。

ともかくにも、現地サポの皆さんはお疲れ様でした。伝え聞くとところによると、「試合後にサポーター席へ挨拶に行く文化はない。」と言っている監督が、さすがに?顔を出したとか。その時、何かやり取りがあったらしいが、そういうのはやっぱりその場で聞きたかった。又聞きではどうにもならない。某新聞の記事とは少しニュアンスが違うとも聞く。これからも、できる限り現地で応援しようと改めて思った次第。もちろん、週末のC大阪戦にも駆けつける。負けるつもりは微塵もない。勝ちたい。応援しに行く者として、その気持ちだけは持ち続けたい。(ぐん)

●いやまあACLやらナビスコやらチャンピオンシップやら、現在のJリーグが過密日程なのは判るけれど、それでも観客平均年齢が40歳だってデータが出てるんだから、年度初めの平日ナイターおまけに遠方の大分遠征っていう日程は、どう考えても(僕は)無理だったんでスカパー!観戦だったけど、約30人の“猛者”たちが現地に駆け付けたとのこと。その彼らのためにも勝ってほしい“裏・天王山”だったのに…それなのに…(溜息)。

前節の敗戦の反省を活かして、あるいは過密日程かつ遠距離遠征を考慮して、大幅に5人のスタメン選手を入れ替えるというアイデアは悪くなかった。しかし、(未勝利・最下位に苦しむ大分が相手でも)チームが全くと言って良いぐらい機能しなかった。悔しいけれど、特に守備面での“崩壊”は本当に酷かった。次々と失点を許す岐阜の選手たち。なんとセットプレーで5失点。確かに大分の#33兵働昭弘のキックは素晴らしく、うち4ゴールは彼の左足が起点だったけど、それにしても競り合いで負け過ぎゴール前でスペースを与え過ぎ、とにかく酷すぎた。DFラインでボールが落ち着かせられないのも見抜かれてて、相手FWが(自信を持って)前線から

ボールを奪いに突っかけて来ていると思う。そしてゴールに近い位置でボールを奪われてショートカウンターという、典型的な失点パターン。攻撃も止まっている選手の足元にボールを出すのが多いから狙われやすい。しかも、そのパスも選手同士が連動していないから成功する確率が低い。今年のメンバーで駄目なら、(確かにナザリトはいないけど他のメンバーは大体残ってるんだから) まず今年のメンバーで戦ってチームを立て直したらどうなんだ? とTVの前で思ってしまった。#24 難波が意地で2点を返したことで“無慈悲スコア”は回避できたし、#14 太田圭輔が怪我から復帰したのは明るい材料だったかな…と、現実逃避しながら「よかった探し」をしてしまう(苦笑)。6失点以上というのは2013年のガンバ、2011年の湘南そして2008年の広島とセレッソ相手にしか献上していない屈辱的な記録だった。チームは猛省してしっかり修正していただきたい。

これで、2011～2013年までは“指定席”だった1年半ぶりの最下位に。昨年からは観戦されている皆さんには馴染みのない状況でしょうが、不本意ながら(苦笑)2年間の残留争いで鍛え上げられたメンタルをお持ちの岐阜サポ諸兄も多いことでしょう。ここからは上がるだけ。我慢しつつ、粘り強く2015年シーズンを戦い抜きましょう!(ささたく)

●4月1日ってのは『年度初め』で、いわゆる“サラリーマン”の方々が観戦に行くのだけでも結構しんどいんだけど、そんな中でどうにか必死の思いで都合をつけて大銀ドームまで足を運んだ約30人のゴール裏の勇士たち。そんな彼らにチームがプレゼントしてくれたのは『修羅場』とも形容できる“修行の環境”だった。リアル・エイプリルフール、そんな形容さえ頭に浮かんでしまった。

昔、『愛のエプロン』というバラエティ番組があったのを思い出した。芸能人が課題の料理を作るという番組なのだけど、まったく“料理慣れ”していない芸能人は「あれ?味が違う」と思った時に「あれ入れてみるか、これも入れてみたら」と場違いな調味料を場違いなほどに投入して料理はどんどん壊れていく。

ラモス監督が「大至急、手を加えないといけない」と金沢戦の記者会見で力説し、大至急で手を加えて5人を入れ替えたスタメン。DF陣に訪れたのは、相手セットプレーでのパニック・シーンの連続だった。おそらくマンツーマンでのDFセットなんだろうけど、ああも簡単に剥がされてはどうしようもない。誰が剥がされ、誰が競り負けたのかは録画でしっかり確認できた。やはり、移籍“させた”のには“させた”だけの理由があったのだなあ……と、ためいき。

金沢戦では「ここまで『手も足も出ない』とは思わなかった」のだけど、とりあえず順位表では唯一岐阜の下にいた大分を相手に「ここまで『試合にすらならない』とは」思ってもみなかった。これで住み慣れた“最下位”です。なんでも、難波さんは3ゴールで得点ランク3位なんだそう。チームの総得点が3で、だ。なんというブラックな状況。このままでは「目標は『残留』」からさらに下がって「希望は『残留』」になってしまう。

監督が「大至急、手を加えた」結果がコレである以上、手を加えるのがいいことなのかもわからなくなってきた。パニック・シーンに陥っているのは選手だけじゃないかもしれない。試合後には監督がサポーターの前に来て「選手はがんばっている!」とかばっていたらしい。選手ががんばって、なぜこのサッカーになるのか。「がんばってこの程度」の選手が揃っているだけなのか「がんばるとこうなる」サッカーを監督がさせているのかかわからないけれど、サッカーには“がんばっている”ことに対する『芸術点』は存在しない。(吉田鑄造)

【ユース】いよいよ新年度

●我々がFC岐阜ユースU-18(以下FC岐阜ユース)は2015年度はG1リーグに参戦します。そのG1リーグの日程は(この記事を書いている4月2日現在)まだ発表されていません。新年度になりましたし、早く発表して欲しいです。一方今月からクラブユース選手権の東海大会が始まります。FC岐阜ユースは4チーム総当たりで行われる1次リーグに参戦し、4チーム中上位2チームが勝ち抜け。他に名古屋・磐田・清水・JFAアカデミーの4チームで行われるPPリーグの2位・3位チームと対戦し、勝利すると全国大会に出場出来ます。まずは4月19日から始まる1次リーグでしっかり勝って、行くぞ!全国!!

最後に卒業生のお話を。この春にFC岐阜ユースを卒業した入山選手と山本選手がFC岐阜SECONDに参加する事が公式サイトでも発表されています。一年先輩の渡邊選手と共に自身の目標に向かって頑張りたいです。

頑張れよ、応援しているからな!FORZA!FC岐阜ユース!!

※試合会場・時間は岐阜県サッカー協会や東海クラブユースサッカー連盟、チームの公式サイトでご確認下さい。(シュナ)

【セカンド】初戦突破!

●FC岐阜SECOND(以下『セカンド』)は、前号でも紹介したとおり、全国大会(全国社会人、天皇杯の県最終予選)へ向けての県予選を戦っています。

先週の日曜に行われた1回戦・Morishin's戦は3-0と勝利して2回戦に駒を進めました。2回戦は来週の日曜、4/12の11:50から各務原市勤労者総合グラウンドでAC戦となります(岐阜県協会公式サイトに依る)。以後、勝ち進むと4/19に準々決勝、4/26に準決勝、そして5/3に長良川球技メドウで決勝戦という流れになります。

岐阜県の社会人チームで最上位のカテゴリー・東海社会人リーグ1部所属に相応しい戦いをしてほしいです。

そして、5月から始まる東海社会人リーグ。まだ公式発表はありません(というか「東海社会人リーグ」には公式サイトがありません)が、漏れ聞こえてくる情報によると開幕は5/9と10の週末。『セカンド』はChukyo univ.FCと戦い、ホーム初戦はその翌週に藤枝市役所と、らしいです……。ここは強調しておきますが、あくまで「現時点で漏れ聞こえてくる」情報ですので、クラブ公式などで『必ず』ご確認ください。(吉田鑄造)